

## 令和7年度 大阪市英語力調査 (GTEC) 結果の概要について

大阪市教育委員会

## ■ 大阪市英語力調査

- 目的 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。
- 実施テスト GTEC Core (ベネッセコーポレーションが提供する英語4技能型テスト)
- 調査対象 大阪市立中学校第3学年生徒
- 測定方法

技能	スコア	回答方法
聞くこと	210	マークシート
読むこと	210	
話すこと	210	タブレットによる音声録音方式
書くこと	210	記述式
計	840	

## ■ 調査結果

	GTEC 平均スコア					*1 CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
	リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)	TOTAL	
大阪市平均	110.2	117.4	98.4	146.4	475.2	60.3%
*2 全国平均	105.0	101.0	104.0	152.0	462.0	—

\*1 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)  
外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1は英検に換算すると3級程度。

\*2 全国平均とは、過去3年間に全国でGTECを実施した学校(中3)の平均値

## ■ 令和7年度大阪市英語力調査の結果について

## 1. 調査結果の概要

指標としている「CEFR A1 レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合」は、前年度から2.8ポイント上昇し、60.3%となりました。これにより、国の第4期教育振興基本計画が掲げる「令和9年度末までに60%以上」という目標値を、2年前倒しで達成しました。

## 2. 技能別の傾向

技能別では、リスニングとリーディングが全国平均を上回っており、本市生徒の強みと言えます。一方、スピーキングとライティングは全国平均をやや下回っており、発信技能に課題が認められます。しかしながら、4技能の総合スコアでは全国平均を上回っており、生徒の英語力は着実に向上しています。

## 3. 成果の要因と今後の展望

こうした成果の要因としては、本市が独自に取り組んできた「小学校低学年からの英語モジュール学習」や、全校へのネイティブスピーカーの配置、継続的な教員研修など、総合的な取組の成果と考えられます。

今後は、課題である発信技能においても全国平均を超えるとともに、CEFR A1 レベル以上の生徒割合を令和11年度末までに62%以上に引き上げることを目標に、さらなる英語教育の充実を図ってまいります。